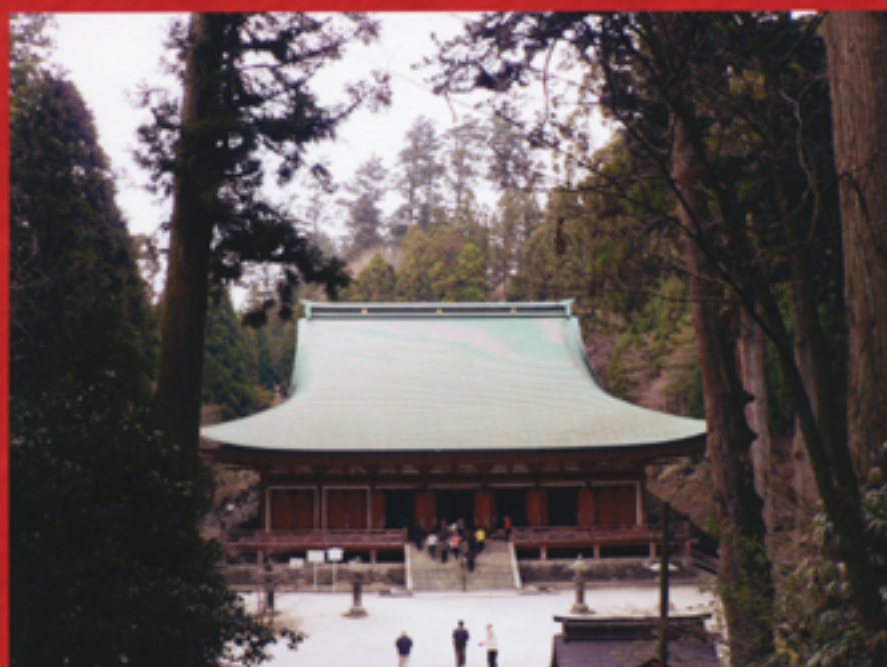


天台宗開宗1200年慶讃

登叡成仏・比叡山延暦寺と
京都三千院・善峰寺
参拝の旅 写真アルバム



平成19年4月11日~13日

参拝旅行企画
天台宗群馬教区沼田部



天台山開宗1200年慶讃大法会 沼田部参拝部 平成19年4月11日 於 浄土院



平成19年 4月12日

天台宗沼田部

於 京都大原三千院



4月11日午後2時ごろ、比叡山に入る。西塔区域の浄土院前で寺院案内人の説明を受ける。浄土院は伝教大師の御廟所で、比叡山で最も清浄な聖域という。

御神木の林立する中、にない堂に向かう。法華堂と常行堂という同じ形の二堂が渡り廊下でつながっていて、俗に「弁慶のにない堂」と呼ばれる。



写真は法華堂で、普賢菩薩を本尊とする。左側は常行堂で阿弥陀如来を本尊とする。

左が常行堂、右が法華堂、二堂をつなぐ渡り廊下の下を抜けると、長い石段の下に釈迦堂が現れる。



長い石段の眼下に青銅葺きの青みを帯びた屋根の釈迦堂が奥深い荘厳な姿を現わす。この場面は水墨画で目にする景観である。

釈迦堂は西塔の中堂で、正式には転法輪堂といい、山上では最古の堂という。本尊は伝教大師御自作の釈迦如来立像で、堂の名もこれに由来する。





4月12日、朝5時過ぎ、比叡山の朝。東の空が明らみ、ご来光を拝する。天空と眼下の琵琶湖と樹影のコントラストがすばらしい。

朝6時の外気はすがすがしい。宿坊「延暦寺会館」を出て根本中堂へ向かう途中で大黒堂を拝する。



「天台宗開宗千二百年、慶讚大法会」と「御修法大法厳修」の墨字で書いた立て札が目にとまる。

根本中堂入り口に立つ大きな石碑。樹間に青銅の屋根が見える。



根本中堂に行くにはきれいに整備された広い坂道を下る。このお堂は余りにも大きくてカメラには写しきれない。6時20分に入堂し朝のお勤めを受ける。

比叡山の総本堂である根本中堂は比叡山最大の仏堂である。開創以来の不滅の法灯は1200年もの間、一度も絶やすこともなく輝き続けているという。





根本中堂で朝のお勤めを終え、心が清々しくなり中堂を出る。あらためて伝教大師の像を拝する。

根本中堂を出た向かいの高い急な石段を登ると文殊楼がある。朱の色が朝日に映えてまぶしい。



文殊楼の近くに中国から渡って来たという「清海鎮大使張保臯碑」と刻まれた立派な石碑が立てられていた。

4月12日、鯖街道を北上する。三千院は、延暦寺を開創された伝教大師が草庵を開いたのに始まる。別に梶井門跡と呼ばれる。



めったにお出ましにならないという三千院門主のありがたい御法話をいただく。

絵に描きたいようなすばらしい庭園が広がる。宸殿から極楽院、金色不動堂、観音堂などへは園内歩道を歩いて拝観する。





院内中ほどに位置する往生極楽院には阿弥陀三尊像が安置され、天井には極楽浄土が極彩色で描かれている。

院内の奥手にある石段を上がると朱色と白壁で鮮やかな観音堂があり、身の丈三メートルの立像の観音様がお祀りされている。



「一日一生」や「民謡に生きる」などの文字が刻まれて奉納された石碑が木々を背景に姿良く配置されている。



4月12日午後1時過ぎ善峰寺駐車場着。全景案内図を見て、余りにも広大な境内であることに驚く。その広さははおよそ三万坪あるという。



九十九折の急な坂道を息を切らしながら登ると、まさに極楽浄土を思わせる境内に足を踏み入れる。それぞれの建造物や植栽の美しさに目を奪われる。

境内諸所で桜花爛漫。鐘楼も満開の桜に囲まれて京都の街を見下ろしている。この鐘の音は京の人たちの心を澄ましてくれることだろう。





天然記念物「遊竜松」が棚の上に30メートルの長い姿を優雅に這っているその境内に多宝塔と六角堂が厳かに建つ。

平安中期に開山された寺は応仁の乱で焦土と化す。その後、徳川5代将軍綱吉の生母・桂昌院の帰依により再建された。「徳川ゆかりの寺宝展」が開かれていた。



境内の奥手に「阿弥陀堂」が桜花の下でひっそりと祀られていた。



時間の都合で「出世薬師如来」が祀られている奥の院までは足が伸びなかった。



桂昌院墓碑の場所からは京都の街の大きな広がり一望できる。樹齢の経った枝垂桜の濃い花色と青い空が良く似合う。

徳川5代将軍綱吉の母の墓碑には「桂昌院殿法雲性恩大夫人」とある。桜花の下で京都の街が一望できる地に祀られてれている。





12日4時過ぎ。
奈良県明日香村
に建つ橘寺に到
着。聖徳太子の
生誕地に自ら建
立した寺。田道間
守が中国から持
ち帰った橘がミカ
ンの原種といわ
れる。

西門を入ると右手
に本堂「太子堂」
画建つ。(現在修
復工事中)
境内に飛鳥時代
の二面石がある。
橘の木も植えら
れていた。橘屋の
屋号の発祥元と
いう。



川原寺には参拝
しなかったが、橘
寺の道路を挟ん
だ北側にあり、川
原宮跡を寺に改
めたという。手前
に礎石が見られ
た。

最終日13日あさ
8時。多武峰観光
ホテルのすぐ裏
手の「談山神社」
を参拝する。写真
は入り口に立てら
れている全景案
内図。



大化の改新の極
秘の談合が行わ
れた地から談山
神社の名があると
いう。御祭神は藤
原鎌足公の御神
像が祀られ「勝運
のお宮」といわれ
る。

日本でこの神社
にしかないという
重要文化財「十三
の塔」は改修工事
のため拝観できな
かった。これをも
って寺社仏閣参
拝の全行程を
終えた。





カメラ&アルバム

須藤 充